

小学校第2学年 道徳科 学習構想案

日 時 令和7年11月14日（金）第5校時
場 所 2年1組教室
指導者 教諭 久保 綾

1 学習構想

主題名 教材名		親切のあたたかさ B-（6）親切、思いやり 「ぐみの木と 小鳥」（出典：小学道徳 生きる力2 日本文教出版 P124～P127）		
主題について		本主題は、小学校学習指導要領道徳編の「よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすること」に関する内容項目である。第1学年及び第2学年の指導内容B-（6）「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」をもとに設定したものである。		
本主題の中心的なテーマ		本主題で働かせる見方・考え方		
親切にした人は、どんな「心」になるか考えよう。		親切のあたたかさについて、多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながらこれからの生き方に生かそうとすること。		
各教科等や体験活動等との関連				
時期	各教科・特別活動等	道徳科	体験活動・日常活動等	児童の心の動き
6月		<p>〈やさしい気持ち〉 B-（6）親切、思いやり 教材名：「ありがとうって言われたよ」 人に親切にすると、相手も自分もいい気持ちになることを理解し、身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。</p>	<p>○帰りの会 「友達に親切にされて嬉しかったこと・心が温かくなったこと」を出し合おう。</p>	<p>友達や1年生に優しくするといい気持ちになるな。これからも優しくしてあげたい。</p>
10月	<p>○生活科 「あそんで作ってくふうして」 1年生とのおもちゃ祭りに向けて、身近にある物を使って遊びや遊びに使う物を工夫してつくる。 1年生を招待しておもちゃ祭りを開く。</p> <p>○運動会 友達と協力して、最後まであきらめずに、一生懸命取り組む。</p>	<p>〈あたたかい心〉 B-（6）親切、思いやり 教材名：「くりのみ」 困っているときに親切にされると、心が温かくなるなど、とてもすてきなことであることを理解し、困ったときには互いに助け合っていこうとする心情を育てる。</p>	<p>○野菜の世話 水やりや草取りなど、野菜の世話をしよう。 力を合わせて野菜の収穫をしよう。</p> <p>○帰りの会 「心タイム」 道徳科で考えたことを生活の中に生かしていこう。</p>	<p>困っているときに親切にされると心が温かくなるな。これからは、困っている人には親切にしたい。</p>
11月	<p>○学級活動 「松橋西支援学校との交流会を計画しよう」 楽しい交流会にするために、アイデアを出し合い、計画を立てる。</p> <p>○学級活動 人権学習「ぼくのランドセル」 友達を差別しないで、だれにでも優しい仲のよいクラスをつくる。</p>	<p>〈親切のあたたかさ〉 B-（6）親切、思いやり 教材名：「ぐみの木と小鳥」 嵐の中、ぐみの実を届けた小鳥の心情を考えることを通して、親切にすることで、相手も自分も、周りの人たちも温かい気持ちになることに気づき、困っている人に優しく接しようとする心情を育てる。【本時】</p>	<p>○松橋西支援学校との交流会 楽しく交流して、友達をたくさん作ろう。</p>	<p>親切にすると、親切にされた人も、親切にした人も、周りの人もうれしく温かい気持ちになるな。これからも、みんなを笑顔にしたい。</p>
目指す児童の姿（期待される姿）				
身近な人々に優しくし、親切にしようとする児童				

2 主題との関連及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）				
低学年の段階では、家族だけでなく、周りの人々や友達などとの関わりが増えてくる。そのため、身近にいる人に対して温かい気持ちで寄り添い心を尽くすこと、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思うことを考えることが必要となる。親切について考えることを通して、相手のことを考えて優しく接することについて考えを深め、困っている人に温かい心で接しようとする心情を育てたい。				
児童の実態				
■本教材の内容項目に関する意識の状況（令和7年7月8日実施） 38人／38人				
	ある	ない	わからない	
今まで、人に親切にしたことがありますか。	36	1	1	
今まで、人に親切にしてもらって、うれしかったことがありますか。	37	1	0	
■道徳の学習に関する意識の状況（令和7年7月8日実施） 38人／38人				
	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
道徳の学習で、自分の考えを友だちや班の人、みんなに伝えて、考えをよりよいものにしていますか？	14	18	4	2
道徳の学習で習ったことを、自分のこととつなげて考えていますか？	19	14	5	0
道徳の学習で、友だちの考えのよさを自分の考えに取り入れていますか？	17	16	4	1
■考察				
【内容項目に関して】				
ほとんどの児童が、親切にした、親切にしてもらった経験がある。しかし、その親切の内容は、「友達が遊んでくれた・遊んであげた」「物を拾ってもらった・拾ってあげた」等で、困っている人に対する自発的行動は少ない。また、困っている児童に親切な行動をしていても、その行動を親切だと感じていない児童もいる。親切について考える活動を通して、自発的な行動の価値に気づき、自分の行動の価値について考える機会としたい。				
【道徳の学習に関して】				
道徳科の授業に意欲的に取り組み、話合いに積極的に参加する児童が多い。しかし、話合いの中で、友達の考えのよさに気付いたり、友達の考えのよさを取り入れることで自分の考えをより良いものにしようとしたりする思いには至っていない児童がいる。相手の考えの理由を尋ね合う活動を取り入れることで多様な考えに触れ、友達の考えのよさに気付くことができるようにしたい。				
題材・教材の価値				
本教材は、人に温かい心で接し、親切にすることのよさについて学ぶことができる教材である。				
低学年の児童は、身の回りにいる人が困っていると、素直に声をかけたり手を貸したりしようとする行動がよく見られる。しかし、時には、仲のよさで行動を変えたり、損得を考えて親切にすることをためらったりと、自分中心の立場に立つ姿も見受けられる。自分中心の考えだけでは、望ましい人間関係を築くことは難しい。				
本教材で、嵐の中でもぐみの実を届けた小鳥の気持ちを考えることを通して、周りの人に温かい気持ちで寄り添うことのよさや身近な困っている人に対して親切にする大切さについて考えを深め、困っている人に温かい心で接しようとする心情を育てたい。				

3 指導上の留意点及び研究テーマとの関連

- 生活科での1年生との交流、行事の松橋西支援学校との交流と関連して、道徳科で養った内面的資質と学習・行事の中で行われる道徳的な実践を絡めて価値付けることで、「人に親切にすること」に対する児童の考えを深めていく。（視点1-イ：目指す児童の姿を意識し、教科等との関連を図った単元デザインの工夫）
- 児童全員の考えを掲示し、それらに基づいた話合いを行うことで、理由や具体例等を尋ね合う活動が生まれることを図り、自他の考えのよさに気付くことができるようにする。（視点2-イ：自他の考えのよさに気付かせる話合いの工夫）
- 道徳の授業時だけでなく、他教科の授業でもペアやグループ等、様々な形で話合いを行い、「話合いで考えを納得してもらおう」「話合いで考えをよりよいものにしよう」経験を重ねておく。それをもとに、本時では、キラリカードや表情カードを活用して、自分が納得するまで質問を重ねる話合いを行うようにする。（視点3-イ：話合い活動を充実させるための基盤づくり）

※「人権が尊重される授業づくりの視点」

自己存在感	中心的な発問についての全員の考えを掲示し、それをもとに話し合わせることで、自己存在感・自己有用感を持たせる。
共感的関係	友達との話合いの際、話合いの目的を「たくさんの考え・理由を出し合おう」とすることで、自分と違っていても、相手の考えや理由を受け入れ、自他の考えのよさを認めようとする態度を育てる。
自己選択・決定的場	キラリカードを活用し、「だれと」「なぜ」意見を交流したいのか、どの意見がよいと感じたのかを表示する場を設け、児童が意思表示ができるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

嵐の中、ぐみの実を届けた小鳥の心情を考えることを通して、親切にすることで、相手も自分も、周りの人たちも温かい気持ちになることに気づき、困っている人に優しく接しようとする心情を育てる。

(2) 展開

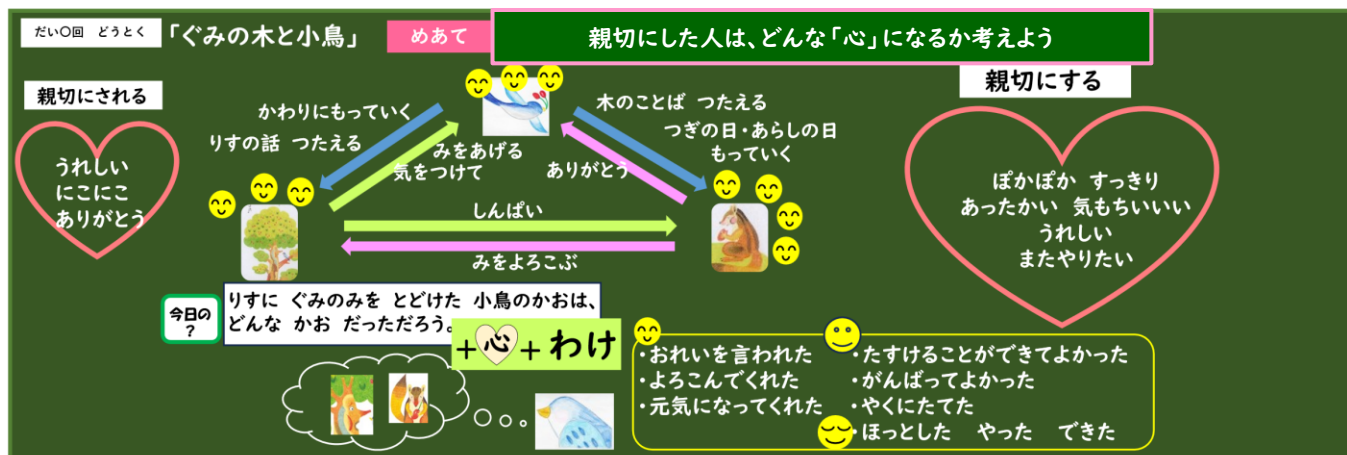
過程	時間	学習活動	◎中心発問 ○発問、指示 ・予想される児童の反応	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	3	1 帰りの会で出た「うれしかったこと・心が温かくなったこと」を紹介し、本時のめあてを立てる。	◎4月からの2年1組であった「親切」です。たくさんありましたね。	◇ICTを活用し、今までの帰りの会で出た「嬉しかったこと・心が温かくなったこと」を紹介する。
めあて：親切にした人は、どんな「心」になるか考えよう。				
展開	5	2 教材「ぐみの木と小鳥」を視聴し、考え、話し合う。 (1) 話の中で見つけた様々な「笑顔」を出し合う。	○笑顔の人が出てきます。どんな場面の誰の顔か考えながら見ましょう。 ○どんな笑顔がありましたか。 ・小鳥がぐみの実をもらった時に笑顔だったと思う。 ・ぐみの木がぐみの実を持って行ってもらった時に笑顔だったと思う。 ・りすが、ぐみの実を届けてもらったときに笑顔だったと思う。	◇見る際に、話を視聴する視点を示し、本時のねらいに迫ることができるようにしておく。 ◇発言を板書で図式化することで、登場人物同士の関係を理解しやすくする。
	2	(2) 嵐の日に、ぐみの実をりすに届けた小鳥の気持ちを考える。	◎ぐみの実をりすに届けた小鳥は、どのような気持ちだったと思いますか。また、その時、どのような表情をしていたでしょう。 ・笑顔だったと思う。嬉しい心になったから。その理由は、大変だったけど、人が喜ぶことをすることができたから。 ・ほっとした顔だったと思う。やってよかったという心になったから。その理由は、嵐の中で大丈夫か不安だったけど、無事に実を届けて安心したから。	◇考えを表情カードで絵に描いて表現することで「きらりタイム」で質問や意見を出しやすくし、交流を通して互いの考えのよさに気づき、自分なりの納得解を持つことができるようにする。 ◇小鳥が嵐の中、実を届けたことについて、今までの自分の経験と照らし合わせることで、人のために自分の精一杯のことを行うことの意義や難しさについて考えることができるようにする。
	20	3 親切にした人は、どんな心になるか考え、交流する。	○めあてに対する自分の考えを書きましょう。 ・心がほかほかになる。だって、「やってよかった」という気持ちになってうれしくなるから。 ・「またやりたい。」という心になる。だって、相手がうれしくなると自分もうれしくなるから。 ・あったかい心になる。だって、笑顔がたくさん増えるから。	◇話し合いにおいては、話し合いの目的を、「たくさん考え・理由を出し合おう」とすることで、多面的・多角的な考えを出すことができるようにする。
終末	15	4 自分自身を振り返る。		
		(1) 今日の学習を振り返る。	○みなさんも、「親切にできてよかった」と思ったことはありませんか。 ○心の振り返りをしましょう。	◇事前アンケートで児童が答えた「親切」をICTで提示し、思い起こすことができるようにする。 ◇「今まで親切にできていた自分」と「友達の考えのよさ」に重点を置いて振り返らせることで、これからの夢や希望を持つことができるようにする。
		(2) 学級の「親切」を紹介する。	○先生が見つけた「親切」を紹介します。	◇ICTで、自分たちが周りの人に「親切」にしている姿を視聴することで、「親切」のあたたかさを実感するとともに、今後の生活への意欲を高める。

(3) 本時の評価（発言・ワークシート）

【視点1】 親切にした時の気持ちについて絵で表現したり、理由を話し合ったりすることを通して、多面的・多角的に考えたり、友達の考えのよさに気付いたりしている。

【視点2】 親切にすることは、自分自身も温かい気持ちになることに気づき、自分との関わりで身近にいる人に親切にしようとする思いを高めている。

【板書計画】



【ICT 活用計画】

- ・導入では、今までの帰りの会で発表された「嬉しかったこと」に関するエピソードを提示する。
- ・終末では、自分たちが周りの人に「親切にしているところ」を視聴させる。